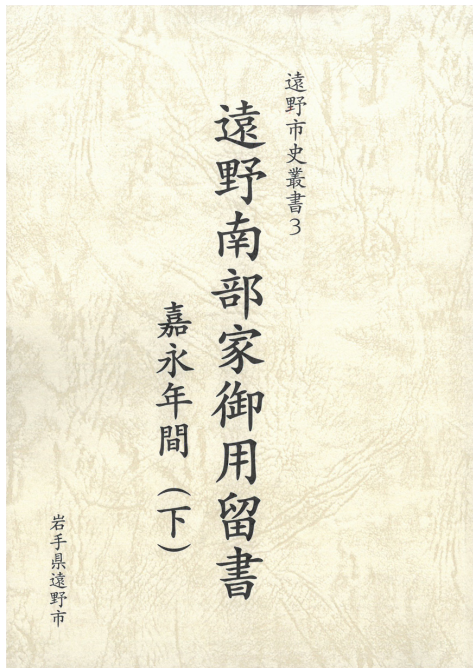




遠野市史叢書3 遠野南部家御用留書 嘉永年間（下）を刊行しました



遠野市史叢書の3冊目となる『遠野南部家御用留書 嘉永年間（下）』を発刊しました。

遠野南部家御用留書は、天保3（1832）年から明治2年（1869）にかけて遠野南部家の盛岡屋敷で記された公用日誌です。うち今回は、嘉永2年（1849）・3年（1850）分を収録した上巻に続き、嘉永4年（1851）・5年（1852）・7年（1854）の分を下巻として刊行しました。

この時代の大きな出来事として、嘉永6年（1853）に三陸沿岸の百姓たちが起こした2度目の三閉伊一揆があります。この一揆では、弘化4年（1847）に遠野に押し寄せた1度目の三閉伊一揆の際と同様に、遠野南部家は百姓らの要求を受け入れ、寛大な対応をしたと伝えられていますが、この年の留書は残念ながら欠本となってしまっています。

ただし嘉永7年の記事には、この一揆に関して遠野南部家の「御預地」とされていた野田通の普代村、田野畑村の百姓たちが落ち着きを取り戻して農業に精を出しており、以降一揆を起こすことはないだろうとして盛岡藩に返還されたことが書かれており、一揆の收拾にあたって遠野南部家が果たした役割の大きさを知ることができます。

『遠野南部家御用留書 嘉永年間（下）』は遠野市立博物館で販売するほか、郵送による販売も承ります。詳しくは市史編さん室へお問い合わせください。

遠野南部家御用留書は解読を完了し、書籍として刊行する準備をしています。次回の発刊は令和7年度を予定しています。お楽しみにお待ちしております。



令和5年4月20日（木）

善応寺跡の調査を行いました

善応寺^{ぜんのうじ}は、かつて青笹町の善応寺集落付近にあったとされる寺院です。由来は定かではなく、斉衡年間（854-856）に慈覚大師によって開かれたとされる説や、文治年間（1185-1189）に慈覚大師の弟子によって六角牛新山宮の宮寺として創建されたという説があります。江戸時代初めに城下に移り、妙泉寺、東善寺とともに現在の遠野小学校の場所にあつて三ヶ寺と称されましたが、明治時代に廃寺になりました。

記録はほとんど残っていませんが、善応寺集落には寺の門前にあったと言い伝えられる梅の木が残っています。地元の方に話を聞きながら善応寺があったと思われる場所を推定したところ、その場所は六角牛山の正面にあたり、また早池峰山も遠望することができました。



▲善応寺跡（推定）と六角牛山

善応寺跡と推定される場所は、現在は草地になっていました。昔、農地に石のようなものがあり、それが寺の跡だと認識されていたようです。





令和5年4月13日(木)、17日(月)

観音堂の調査を行いました

この観音堂は綾織町上綾織の山口地区にあります。これまで詳しい由来は不明でしたが、堂内に残された最古の棟札から、享保12年(1727)に千手観音を祀ってお堂が建てられたことがわかりました。その際、綾織にいた修験の慈聖院が「普門山慈眼寺千手堂」という山号や、本尊、お堂などを寄付したと記されています。

千手観音は千手千眼観自在菩薩ともいい、衆生をあまねく救済する慈悲と力を千本の手にあらわしており、千は無限という意味を持っています。千本の手にはそれぞれ目があり、その慈眼で人々を見つめ、あらゆる願いを叶えるとされることから、日本では奈良時代から信仰されてきました。

明治時代の棟札には「瀧澤神社」や「大瀧神社」と記されており、神仏分離令や修験禁止令の影響によって寺社から神社になったと考えられますが、現在も地域住民からは「かんのんさま」と呼ばれています。



▲観音堂外観



観音堂の本尊。▶
千手観音像は、多くは42臂(42本の腕)であらわされ、実際に千本の腕を持つ千手観音像は少ない。42臂の意味は、合掌する2本を除く40本の手がそれぞれ25の世界を救う(40本×25=1,000)ことに由来するとされる。この像は、胸の前で合掌する2本以外は失われてしまっている。

編さん室日記

4月中旬、岩手めんこいテレビの番組「山・海・漬」のロケがあり、国指定史跡になったばかりの鍋倉城を取り上げていただきました。頃合いよく桜も咲き、鍋倉城跡や遠野市立博物館でロケが行われました。

あわせて4月29日(土)開催の南部氏遠野入部行列も紹介していただけることになり、市史編さん室の前川さおり次長が清心尼公姿で解説を担当しました。この清心尼公の衣装は入部行列で実際に使われているもので、当日の清心尼公配役も、この日に当人(※前川)に伝えられたのでした…。

4月29日(土)は入部行列と「山・海・漬」放送をぜひお楽しみください。



▲左から、森尾絵美里アナウンサー、清心尼公姿の前川、日本城郭史学会盛岡支部長の神山仁さん。森尾アナは清心尼公の腰元という設定。蔵の道ひろばにて。

市史編さん室では、古い時代の資料や館跡を調査しています。
古文書や古写真をお持ちの方は、ぜひ市史編さん室までご連絡ください。

編集・発行 遠野市民センター市史編さん室

〒028-0515 岩手県遠野市東館町3番9号(遠野市立図書館・博物館内)

TEL:0198-62-2340 FAX:0198-62-5758